

Leader  
金沢大学 理工学域長

## 山崎光悦

Leader  
富山大学 理事・副学長

## 広瀬貞樹

### 大学の役割は 学生に環境と機会を与え 学ぶ情熱を引き出すこと

旧富山県立福野高校で同級生だった2人が、2008年、金沢大学と富山大学の工学部長に就任した。現在、金沢大学理工学域長の山崎光悦氏と富山大学理事の広瀬貞樹氏に、地方国立大学の今後にかける思いを聞いた。

### 情熱を抱かせ 未来を生き抜く力に

編集部 お2人は、それぞれ金沢大学と富山大学の工学部で学ばれました。ご自身の学生時代を振り返りつつ、最近の学生について感じていらっしゃることをお聞かせください。

**金沢大学・山崎理工学域長(以下山崎)** 私たちが学生だった頃は、一番大切な分野は日本のものづくりを支える工学部であると考え、「この研究から日本の躍動が始まる。これからの日本を引っ張っていくんだ」という自負心を非常に強く持っていました。そういった意味で、当時の若者にはめざすべき目標がきちんとあったと思います。

**富山大学・広瀬理事(以下広瀬)** 実は、私はそんなことは全然考えていませんでした。数学に興味があったので数学科に入ろうと思ったのですが、就職のことを考慮して工学部を選んだのです。大学の講義で思いがけず自分が興味を持てる学問に出会えたのはラッキーでしたね。

**山崎** 最近の学生を見ていて感じるのは、真面目で優秀なのだけれども、熱く燃えられる目標が持てずに何となくしらけているということ。ただ大好きなだけでもいいので「こんなことをやりたい」という情熱が持てる環境を与えるのが大学の役割であり、私たちの使命だと考えています。

**広瀬** 私も同感で「もう少し燃えろよ」と思いますね。学生にとっては選択肢が多すぎて何をやっていいのかわからないのかもしれませんが。そんな彼らに興味を持てるテーマ、やりたいことを見つけさせ、未来を生き抜く力

を養いたいと考えています。

### ものづくりの現場で 目標を見いだす

編集部 どのようにすれば、学生に目標を持たせることができるでしょうか。

**山崎** 難しい問題ですね。3.11以降、世の中の価値観が様変わりしつつあります。特に、安全と言われ続けてきた原発があのような状態になり、科学技術への信頼が大きく揺らいでいます。これは深刻な事態です。このまま、子どもたちが科学技術や理工学を忌避するようになったら……。資源もエネルギーも食糧も自給できない日本をどうやって支えていけるのか、大変危惧しています。

だからこそ、理工学を教える立場から、若者が燃えることができるようなビジョンを授けてやりたい。私たちが熱く語り掛けることによってハートやマインドを伝え、若者が自分の力をもっと高められることに気づかせたいと思います。

**広瀬** 日本は技術立国なのだから、技術者を育てなければならない。それにもかかわらず、中学・高校で「理科離れ」や「数学離れ」が進んでいる現状には、正直驚かされています。

高校時代にやりたいことを見つけている学生もいますが、漠然と学部・学科を選んでいる学生も相当数います。そのような学生たちに「こんなに面白いものがあるよ」とテーマを提示し、それに興味を持たせて伸ばしていくような教育が、今の大学には必要です。

富山大学では5年ほど前から長期



やまさき・こうえつ 1951年生まれ。金沢大学工学部卒業。同大学大学院工学研究科機械工学専攻修士課程修了。同大学工学部助手、講師、助教授、文部省在外研究員などを経て、1994年に工学部教授。工学部長、学長補佐、理工学域副学域長などを歴任し、2009年4月より現職。工学博士。専門分野は材料力学、設計工学など。



ひろせ・さだき 1951年生まれ。富山大学工学部卒業。東北大学大学院工学研究科情報工学専攻博士課程修了。株式会社富士通研究所、神奈川大学工学部助教授、富山大学工学部助教授などを経て、1998年に富山大学工学部教授。工学部副学部長、学部長などを歴任し、2011年4月より現職。工学博士。専門分野は情報工学など。

インターンシップに力を注いできました。教員が学生を引率し、半年間にわたって企業の現場で実習を積むプログラムです。これは、学生が工学を学ぶ意義を再認識し、具体的な目標を見いだす絶好の機会になっています。学生だけでなく、教員も「現場の視点」を確認することができますし、産学の協同研究が促進されたり、就職先が開拓できたりといった副次的な効果も大きいです。

**山崎** 「現場の視点」は重要です。机上と現場が乖離しては、知識だけで何一つできない人間を社会に送り出すことになりかねません。工学には、利便性を向上させて人々に利益をもたらす、あるいは幸福の一助となるという使命があります。その使命を実現する「ものづくりの現場」は、学びの宝庫と言えます。

金沢大学には、短期のインターンシップで中国や韓国、タイなどに出す仕掛けがあります。さらに、修士・博士課程の学生を対象とした長期インターンシップにも力を入れています。いずれも、現場に出て実践する力を身に付けることが重要だと考えているからです。

リーダーの養成も重視しています。人とは少し違う環境に放り込んだり、特別な機会を与えたりすることによって、新たな気づきや動機が芽生え、

そこから将来のリーダーが生まれてくると考えています。

### 地域と密接に連携し 大学の特色に

編集部 地方国立大学の役割と広報について、どうお考えですか。

**広瀬** 残念ながら、富山大学のことが地域によく知られていないのが現状です。例えば、地元のマスメディアから「TPPの問題について解説してもらおうとしたら、どの先生が適任ですか」といった問い合わせがあります。これは、端的に言うと教員の研究内容が知られていない証拠でしょう。

ですから、まずは「ありのままの大学」を紹介することに専心しています。2011年度は地元のテレビ局で、毎月3つの研究室を紹介する番組を放映する事業に取り組みました。この地域に富山大学があって良かったと誇れるような大学である、ということを広報していきたいと思っています。

インターンシップに限らず、地域との緊密な連携は大学にとって重要です。富山県には電気、機械、製薬、化学といった分野の企業が多数存在します。本学は、産業界から講師を招いて学生にレクチャーしていただいたり、各分野の若手技術者の再教育の場として機能を発揮したりすること

もあります。

さらに、本来はライバル同士である複数の企業の技術者が、互いに学び合える機会を提供することにも努めています。つまり地域を挙げて技術者のレベルを向上させるために、大学がハブのような役割を担うということです。これは、富山大学だからこそ果たせる機能であり、本学の大きな特色として打ち出せます。

**山崎** その話を初めて聞いたときは「そんなことができるの?」とびっくりしました。個人的には、北陸の各大学がそれぞれの特色を打ち出し、補い合ってこのエリアで一つの大きなまとまりとしてのプレゼンスを示せれば、東名阪エリアの大学群にも引けを取らないはずだと思っています。

金沢には古き良き伝統・文化を残しつつ、新しいものを積極的に取り入れる街の魅力があり、それは国内外にアピールできます。学問についても、理工系や医薬系の研究において、世界のトップレベルにある点が本学の魅力です。熱いハートと目標を持った受験生にはもちろん、目標の定まっていない受験生にも「あなたの未来を一緒に探しませんか」というメッセージを送っています。目標を持てば大学で成長できること、大学はそのための環境と機会を用意していることに、気づいてほしいと思います。